

日本鉄鋼協会記事

評 議 員 会

第1回評議員会 開催日：2月17日。出席者：的場会長ほか委任状含め190名。

1. 昭和45年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件。
2. 昭和46年度事業計画、収支予算の件
3. 理事、監事ならびに評議員選挙の件
以上原案通り承認。

理 事 会

第7回理事会 開催日：2月17日。出席者：的場会長ほか30名。

1. 教育委員会の設置および同委員長委嘱の件
佐野幸吉君（名古屋大学名誉教授）を委嘱することを決定。
2. クリープ委員会委員長、解嘱、委嘱の件
三島徳七君を解嘱し、平 修二君（京都大学教授）を委嘱することを決定。
3. 名誉会員推挙の件
藤本一郎君、Baker IITI 事務局長、Cervini ILAFA 会長、Coche IRSID 所長、Cohen ASM 会長を名誉会員に推挙することを決定。
4. 湯川記念資金取扱規程制定の件
5. 八幡製鉄渡辺記念資金取扱規程一部変更の件
6. 川崎製鉄西山記念資金取扱規程一部変更の件
7. 特別資金運営委員会規程一部変更の件
8. 浅田記念資金寄贈申出の件
9. 昭和46年度服部賞、香村賞、依論文賞、渡辺三郎賞、渡辺義介賞、渡辺義介記念賞、西山賞、および西山記念賞、各受賞者決定の件
以上原案通り決定した。
10. 第3回日ソシンポジウム開催の件
本年10月モスクワで開催することが承認された。
11. 北欧3国へ鉄鋼使節団派遣の件
本年9月20名程度の使節団を派遣することが承認された。

研 究 委 員 会

第7回委員会 開催日：2月9日。出席者：今井委員長ほか22名。

1. 教育委員会設立の件
鉄鋼協会の関係する分野での教育問題に従来以上に強力に対処するため、研究委員会の下部組織であつた教育問題小委員会を独立させ、教育委員会とすることが決定され、企画委、理事会にはかかることにした。
2. 技術講座小委員会拡大の件
広範囲のテーマをこの小委員会が扱っているため、各

分野をカバーするよう、委員を4~5増加することとした。

3. 基共研凝固部会設立について
従来検討してきた新規テーマのうち、凝固を研究する新部会を設立するよう基共研運営委員会に提案することとした。
4. 46年度通産省補助金申請について
申請を検討している排煙脱硫試験委、原子力部会、耐熱合金研究委の状況が報告された。

編 集 委 員 会

第11回和文会誌分科会 開催日：3月2日。出席者：松下主査ほか13名。

1. 論文審査報告
掲載可11件、修正依頼3件。
2. 鉄と鋼第57年第9号掲載論文選定 論文10件、技術資料1件を選定
3. UDCに関する件
資料委員会より説明があり、鉄と鋼にUDCを採用するかどうかについては、今後具体的に検討していくことになった。
4. 特集号について
「高炉の複合送風」をテーマに第3回特集号を編集することになった。

第12回欧文会誌分科会 開催日：2月24日 出席者：中村正久幹事ほか13名。

1. 12件の論文について審査報告がされた。
2. 委員よりの推薦と「鉄と鋼」57年2号から6件の論文について投稿を勧誘することとなつた。

共 同 研 究 会

第3回総務幹事会 開催日：2月19日。出席者：伊木幹事長ほか18名。

1. 運営委員会、総務幹事会の在り方
2. 公害問題の取り組み方
について討論し、総務幹事会については構成幹事を拡大し、部会長直属幹事のほか分科会主査直属幹事を加えることとした。なお総務幹事会を共同研究会運営の実質上の最高審議機関とすることを申し合わせた。
その他の議題について次回以降に継続審議することになった。

計測部会第47回部会 開催日：2月17、18日。出席者：磯部副部長ほか67名。

鈴木部会長直属幹事から事務報告を行ない、工業計器標準案にたいするメーカー側答申、転炉EG系統計装小委員会、圧延用ロードセル委員会についてそれぞれ各主査より報告（中間報告も含む）があつた。

また昭和 46 年度小委員会として「X線厚み計」(主査 新日鉄 鈴木久夫)「温度標準変更対策」(主査 日本鋼管 下間照男)の 2 小委員会の発足が決定された後議題の討議を行なった。

発表論文は 1) 製鉄関係の計測 1 件, 2) 圧延関係の計測 4 件, 3) エネルギー関係その他の計測 4 件, 4) 計測技術の改善, 新技術製品の紹介 7 件, 5) 計測器の検査保全上の問題 2 件である。2 日目の午後(株)横河電機製作所本社工場の見学を行なった。

原子力部会

第 8 回第 1 小委員会 開催日: 2 月 4 日。出席者: 松本小委員長ほか 16 名。

原子力発電による電力を利用して圧延工程の加熱炉熱源の誘導加熱への変換を検討していた第 4 次ワーキンググループにより, このほどまとめられた検討結果について, 発表が行なわれた。今後の方針として, これまで第 1 ~ 第 4 次ワーキンググループで行なった検討結果について, 前提条件の見直しを含めて, 総まとめを行なうため, 第 5 次ワーキンググループを発足することになった。

第 12 回第 4 小委員会 開催日: 1 月 28 日。出席者: 森小委員長ほか 22 名。

1. 前回議事録確認
2. システム小委員会および高温ガス炉懇談会ワーキング・グループの検討経過が報告された。
3. ヘリウムテストループに関して, 実験ループ(案), 熱交換器の構造および水素除去装置の検討を行なった。
4. 熱交換器管群の振動および大型熱交換器の問題点について, 検討結果が発表された。

第 1 回熱交換器小委員会 開催日: 2 月 1 日。出席者: 吉田委員ほか 29 名。

本小委員会設立にいたった経緯について説明が行なわれ, 以下の議題について報告および審議が行なわれた。

1. 小委員会およびワーキング・グループの運営方針について
2. 共同研究の実験実施場所について
3. 共同研究計画の内容について
4. その他

第 2 回熱交換器小委員会 開催日: 2 月 6 日。出席者: 池上小委員長ほか 21 名。

第 1 回熱交換器小委員会において, 懸案事項となつたワーキング・グループの機能および構成について審議が行なわれた。さらに共同研究の実験計画内容について討議された。

第 13, 14 回特許グループ 開催日: 2 月 8 日。出席者: 葛本主査ほか。

昭和 46 年度に共同研究を行なうことになった「高温熱交換器および還元ガス製造の研究」の共同研究契約の骨子案を審議作成し, 熱交換器小委, 還元ガス小委にはかることとした。

第 3 回シャフト炉小委員会第 6 回 WG 合同会議 開催日: 2 月 5 日。出席者: 国井 WG 主査ほか 21 名。

1. 実験見学
シャフト炉の操業実験を見学した。
2. 試験研究の統行について

46 年度本共同研究を実施することの可否について審議したが 決論が得られず次の機会に検討することとした。

3. 第 III 期運転結果の報告

第 1 回還元ガス小委員会 開催日: 2 月 1 日。出席者: 池田小委員長ほか 26 名。

46 年度に還元ガス製造の共同研究を実施するために当小委員会が設立され, 初の会合が開かれた。小委員長には池田稔氏(川鉄技術開発部長)が就任し, 12 社が参加している。

1. 委員自己紹介
2. 小委員会, ワーキンググループの運営方針について
3. 共同研究の実験担当場所について
石川島播磨重工で実施することとした。
4. 共同研究計画の内容について
5. 今後の運営について

第 2 回還元ガス小委員会 開催日: 2 月 18 日。出席者: 池田小委員長ほか 41 名。

1. 共同研究計画の概要について
ワーキンググループで検討された計画の概要を審議した。
2. 通産省への申請について
補助金申請書案を審議し, 原則が認められて 2 月末に申請書を提出することとした。
3. 経費分担方式について
4. 共同研究契約骨子について

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会/第 1 回 SC 3 分科会 開催日: 2 月 3 日。出席者: 青木主査ほか 7 名。

4 月パリにて開催される第 1 回ミーティングで審議される草案の討議を行なった。

日本のコメントを 2 月 18 日に作成する。

第 2 回 SC 3 分科会 開催日: 2 月 18 日。出席者: 青木主査ほか 6 名。

ISO/TC17/SC3 37F と 37F に対して詳細な検討を行ない, 日本側のコメントを作成した。

第 4 回 SC 8 分科会 開催日: 2 月 17 日。出席者: 青木主査ほか 6 名。

1. 日本コメントの作成
 - (1) SC8 N252
ビームの許容差に対する Draft ISO Proposal
 - (2) SC8 N253
フラットバルブの寸法に対する
Draft ISO Proposal

上記 2 つについて日本のコメントを作成し, 2 月中に事務局へ送ることとした。

第 15 回 SC 12 分科会 開催日: 1 月 30 日。出席者: 三佐尾主査ほか 5 名。

三佐尾主査(日本鋼管)から下記 3 件の Japanese Comments の原案が提出され審議が行なわれた。

- (1) The first ISO Proposal for Continuous Hot Dipped Galvanized Hot Rolled and Cold reduced

Carbon Steel Sheet of Commercial and Drawing Qualities

(2) The Second ISO Proposal for Hot Rolled and Cold Reduced Carbon Steel Sheet, Structural Quality

(3) The Continuous Hot Dipped Galvanized Hot Rolled and Cold reduced Carbon Steel Sheet of Structure Quality.

この審議内容に基づいて、三佐尾主査の処で、Japanese Comments を作成することになった。

.....
第25回特殊鋼分科会 開催日：1月27日。出席者：西主査ほか12名。

1. JIS 規格の見直しについて

G4052, 4106, 4051, 4102, 4103 などについて見直す必要があるかどうか討議した。その結果、もう一度各委員から意見を提出してもらい、それを基に工技院へ答申することにした。

2. 規格記号体系について

種々討議したが、結論は得られず、次回再討議する。

.....
第27回鋼管分科会 開催日：1月22日。出席者：桑原主査ほか18名。

配管用・熱伝達用炭素鋼鋼管および配管用・熱伝達用合金鋼鋼管のJIS見直しについて逐条審議を行なった。今後の予定として、従来の審議にて懸案となつた事項の検討および非破壊検査に関する検討を行なうことにしている。

.....
第1回線材分科会 開催日：2月5日。出席者：清水主査代行ほか11名。

昨年来、当分科会で、審議していた線材関係JIS（軟鋼線材、硬鋼線材、ピアノ線材）の見直し原案について、メーカー側の最終調整を行なった。

その修正内容は

(1) 適用範囲

軟鋼線材・硬鋼線材・ピアノ線材それぞれ一部修正した。

(2) 化学成分

ピアノ線材について、使用量の少ない7鋼種を原案より削除した。

(3) 寸法

許容差および偏径差について、やや厳しいレベルで規定した。

そのほか、報告の項について規定した。

この修正原案は、線材専門委員会にかけて審議規、格化される予定である。

.....
第33回機械試験方法分科会、第10回SC6分科会 開催日：1月26日。出席者：吉沢主査ほか20名。

シャルピー衝撃試験機の総合精度検定のための共同実験追加データの報告検討を行なった。

.....
第3回機械試験方法体系調査小委員会 開催日：1月27日。出席者：吉沢武男小委員長ほか21名。

1. 性質を中心としてまとめた試験方法を、引張試験、曲げ試験など、試験方法を中心にしてまとめ、商行為に必要な試験方法をチェックし、研究用のみ使用される試験方法を、まとめてから削ることになった。

第4回機械試験方法体系調査小委員会 開催日：2月4日。出席者：吉沢武男小委員長ほか22名。

1. 前回の検討をもとにして、小委員長より、機械試験方法のまとめ（案）が提出された。

2. 前回に続き、圧縮試験、衝撃試験、深絞り関係試験、疲れ試験、クリープ試験、ねじり試験、かたさ試験その他試験について商行為に使われているもの、研究用のものなどのチェックを行なった。

3. 以上の審議をもとに、答申案を作成し、文書審議のうえ、工技院に答申することになった。

.....
第5回JISニッケルクロム鉄合金分析方法原案分科会 開催日：1月22日。出席者：神森大彦主査ほか17名。

1. ニッケルクロム鉄合金のニッケル、クロム、鉄、銅、アルミニウム、チタン、コバルトの定量実験結果の報告をうけ、整理後、許容差の資料としてJIS原案に掲載することになった。

2. ニッケルクロム鉄合金のJIS原案を、共同実験結果にもとずいて修正を行なった。修正後のJIS原案を次回前に配布し意見をもちよることになった。

第8回JISニッケルクロム鉄合金分析方法原案分科会 開催日：2月23日。出席者：神森大彦主査ほか18名。

1. 原子吸光分析方法（案）について、討議し決定した。

2. JISニッケルクロム鉄合金分析方法原案について、字句の訂正を含めた審議を行ない決定した。この原案を標準化委員会を経て工業技術院に提出することになった。

3. 解説は文書審議のうえ工業技術院に提出することになった。

4. この分科会は今日でほぼ終了し、委員各位の御協力を謝する旨主査より挨拶があつた。

.....
第1回鋼質判定試験方法分科会 開催日：1月21日。出席者：西主査ほか18名。

1. 分科会の任務および活動方針について
 鋼材の試験のうち内質試験について、JIS、学振法、海外規格の調査を行ない、JISの見直しの検討を行なう。

2. 45年度工技院依頼規格の見直しについて
 G0551, G0552, G0553, G0556 について問題点を討議した。この結果に基づいて、アンケートを取り次回分科会で再度討議することにした。

クリープ委員会 技術部会

第3回金材技研クリープデータシート連絡分科会 開催日：2月3日。出席者：田中主査ほか9名。

金属材料技術研究所では昭和41年度よりわが国における代表的な耐熱鋼および耐熱合金のクリープデータシ

ート作成に着手しているが、本年は5年目を迎えることとなつた。当委員会では同データシート作成上緊急度の高い鋼種とその試験条件などについて毎年要望書を同研究所に提出してきたが、この要望にもとづき本年までに同研究所で採択された鋼種は炭素鋼、低合金鋼、ステンレス鋼のほかニッケル合金およびコバルト合金におよび、その数はすでに32、総計241チャージに達した。当分科会では昭和44年度の要望鋼種選定に当りAランク5鋼種、Bランク6鋼種を選定して要望書を作製したが、このうちAランク鋼種はすべて44年度に、またBランク中N-155合金は昭和46年度に採択された。○昭和46年度の要望鋼種については、今までに採択されなかつた鋼種につきアンケートにより技術部会委員の意見をきいたうえ、本日の会議ではその回答結果を集計し上位5鋼種を一応決定した。

たたら製鉄法復元小委員会

最終会合 開催日：2月3日。出席者：松下委員長ほか13名。

たたら製鉄法復元計画委員会のたたら復元実験および特別報告書の作成はほぼ完了したので、活動報告および決算報告のために最終会合が開催された。

たたら製鉄法復元の特別報告書は、現在グラ校正中であり、3月末に出版される予定である。

決算報告によると、年初の予算外に、映画製作費の追加があつたが、鋸の販売、映画プリントの販売などがあつたため、全体としては年初の予算内でおさまつたとのことである。

最後に、松下委員長および蜂谷総務委員長より、本事業に対する、委員および幹事各位のご協力とご尽力に感謝の意が表明された。

鉄鋼基礎共同研究会

第14回運営委員会 開催日：2月18日。出席者：今井委員長代行ほか15名。

1. 各部会活動報告
2. 46年度予算

総額約330万円の運営費および鉄鋼協会特別研究費1300万円合計1600万円の46年度予算案が認められた。

3. 基共研新規テーマについて
次の2部会を46年度に新設することとした。

- ① 凝固部会
- ② 純鉄固体質量分析部会

遅れ破壊部会第7回部会 開催日：1月25日。出席者：藤田部会長ほか13名。

1. 研究発表

- (1) 軟鋼の脆性破壊発生に及ぼす結晶粒径の影響
飯野牧夫 (新日鉄)
- (2) 鉄単結晶の劈開破壊について
寺崎富久長 (住金)

材料研究準備委員会

第2回委員会 開催日：1月28日。出席者：大竹委員長ほか21名。

発足後初めての研究発表会であつたが、有益な研究発表、活発な討議がなされた。

研究発表は以下の4件であつた。また研究発表に先立ち研究所内の見学を行なつた。

1. 鋼材の焼戻し脆性の機構 (調査報告)
2. 焼戻し脆性の脆化機構
3. 低温用ニッケルの焼もどし脆性
4. 焼きもどし脆化、応力除去焼きなまし脆化におよぼす組織の影響

排煙脱硫試験委員会

第2回委員会 開催日：2月10日。出席者：豊田委員長ほか18名。

1. 共同研究の範囲
2. 共同研究に伴う契約書につき、幹事会の提案を承認した。

第3回委員会 開催日：2月25日。出席者：豊田委員長ほか16名。

1. 通産省重要技術研究開発費補助金申付申請書を承認した。

真空冶金国際会議

第1回実行委員会 開催日：2月16日。出席者：斉藤委員長ほか15名。

斉藤実行委員長より、これまでの経緯説明があり、組織委員会および実行委員会を設けること、さらに実行委員会の中に常任委員および幹事を設けて、細部に亘る諸事項を処理することが説明された。幹事として、白石先生、加藤先生、後藤先生、佐野先生にご尽力いただくことになつた。

次に予算(案)が事務局より説明され、原案どおり承認された。

つづいて、First Circularの審議が行なわれた。原案はProf. Bunshahの意向を取り入れた部分が多いが、あくまでも日本側の主体性に基ついたものにすべきであるという意見が強かつた。近日中に幹事会を開いて、First Circular(案)の再検討をすることになつた。